

令和2年度中P連要望書のご報告

緑野中学校分

要望1 「校庭への照明設置」について ※R元年～継続

本校の校庭（グラウンド）は区内10校の中で唯一校舎と離れた場所に位置しております。そのため校舎内の職員室からでは直接的な安全監視ができない構造となっており、また自動車・自転車等の交通量は比較的少ないものの、移動の際には道路を横断しなければなりません。横断歩道付近に街頭はあるものの、日没後の視認がしづらく、部活動後の移動においては教職員により生徒の安全確保を行っておりますが、一抹の不安があります。

さらには、特に冬の時期は日没も早いため、隣接する緑野小学校のキッズプラザ施設を利用する児童の安全確保も必要となります。そのため、生徒・児童の安全確保と、教職員の負担軽減のためにも、横断歩道付近及び校庭内外を照らす照明器具の設置をしていただくよう強く要望いたします。

●今後の方向性

順次進めていく既存中学校の校庭改修にて、各校への校庭照明の設置についても検討を進めているようであり、緑野中学校の場合は、グラウンド照明だけではなくキッズプラザを利用する児童の安全対策についても併せて検討していく模様。

要望2 「準備室・生徒会室への冷房設置」について ※H30～継続

国語、英語、社会科などの授業で使用する教材の事前準備を準備室にて作業を行っていますが、特に夏季は準備室に冷房がなく高温になるため熱中症の恐れもあり、とてもではありませんが作業できる状況ではありません。こうした状況は生徒会室も同様であります。

そのため教材等を職員室へ運び事前準備を行います。職員室には作業のための十分なスペースを確保することは困難であります。また教材を運ぶことは非効率でもあります。

教職員の労働時間の短縮および労働環境の整備を図ることは働き方改革に直結いたしますし、何よりも限られた時間を有効活用できることで、本来あるべき姿の「生徒と向き合う時間」が確保できます。

また、生徒会も同様に過去の資料や必要な機材がある生徒会室で、学校内外での生徒同士および先生方とのコミュニケーションを図るための準備や話し合いのために、日々生徒会室を使用しております。

教職員ならびに生徒が何の心配も負担もなく活動できるよう、準備室と生徒会室へ冷房を設置して頂きますよう強く要望いたします。

●今後の方向性

教職員と生徒の学校での活動を考えると整備をする必要性を強く感じているが、現段階では第2特別教室の整備を優先せざるを得ないと判断しているとのことで、今後の各校での整備状況を踏まえながら検討していく模様。

要望3 「校舎玄関等への網戸設置」について ※R2年新規

マイクロを含む飛沫感染を防ぐためには、気候上可能な限り常時換気を徹底する事としております。それは、広く天井の高い体育館であっても換気は必要とされ、エアコンを使用している教室でも、エアコンは単に空気を循環しているだけであるため、外気を取り込む換気は必要とされております。

しかしながら、昆虫や害虫などの生物が息づく季節においては窓の開閉により教室内へ侵入することが常であります。学校の立地条件や設置されている教室（特支）によって事情は異なりますが、虫の種類によってはデング熱やアナフィラキシーショックを引き起こす可能性もあります。特に基礎疾患のある生徒を多く抱える学校ではそもそもの死活問題であると言えます。安心して外気を入れ込むためにも必要とされる各教室への網戸の設置が急務であると考えます。

また、ほとんどの学校では玄関や昇降口の扉を開けっ放しにし、少しでも多くの外気を取り組む対策を講じておりますが、まさに昆虫や害虫の玄関口としても利用されております。

これまで網戸は各学校の判断のうえ、校割予算での設置となっておりますが、今や必要不可欠なものとなっております。

少ない投資で最大限の効果がありますので、必要な箇所への網戸の設置を早急にさせていただきますよう強く要望いたします。

●今後の方向性

虫の侵入が懸念される部分の網戸設置については、対応をしていくとのこと。

中 P 連統一要望

統一要望 1 「ICT」について ※要望項目のみ掲載

- ◇電子黒板や大型モニター等の増設を図ること。(特別教室含む)
- ◇ソフト、ハードの補助が可能な ICT 支援員の派遣拡充を行うこと。また、その場合は民間の派遣会社なども視野に入れ、地区毎に派遣もしくは巡回を行うようにし、ICT 支援だけでなく、教育にも見識のある人材が望ましい。
- ◇校内高速 LAN、大容量サーバーへの環境整備と各学校の無線 LAN アクセスポイント、校外インターネット接続のより一層の充実を図ること。
- ◇セキュリティへの配慮など、学校教育に特化したタブレットを生徒一人に 1 台配備すること。
- ◇デジタル教科書の導入とリモート授業が行える ICT を活用したカリキュラムの構築を図ること。
- ◇教員に対して、ICT を利用した教育を学ぶ機会を設けること。
- ◇業者委託する際は、教育の特性に鑑みて競争入札方式ではなく、より専門性を維持するために業者選定委員会を開催し、プロポーザル方式で指定をすること。

●今後の方向性

GIGA スクール構想実現のため、令和 2 年度中に校内 LAN の整備と生徒 1 人に 1 台の端末を配備し、インターネットの接続については、学校内の他システムの最適化と併せ、令和 3 年度に検討を行う模様。ICT 支援員も区内で必要とされる人員を配置する方向で検討している模様。

業務委託は、内容により契約方法を適宜検討し、最適な方法を選択していく模様。

デジタル教科書は、既に導入されている数学、外国語において、分かりやすい授業が展開されておりますので、今後、他の教科での導入も検討していく模様。

基本的に、今後の GIGA スクール構想を見据え、学校での対面学習と家庭での個別学習で ICT 機器を活用した学習モデルを検討しますが、ICT 機器の活用は目的ではなく、あくまでもツールでありますので、ICT を活用したカリキュラムについては、区の示した活用例などを参考に各校が検討し、次年度の教育課程や指導計画に位置付けていくとの事。

統一要望 2 「体育館・特別教室の熱中症対策」について

※本校体育館の改修の歴史と準備室・生徒会室の空調整備も含まれますので全文掲載

平成 29 年度より本要望を提出させていただきました。お陰様で各校体育館の耐震化工事に合わせ、空調設備の設置も着々と進み、生徒はもちろん教職員、学校施設を利用する地域の方々より感謝の声を聞くことができいております。さらには、4 年前より提案 しておりました屋根や壁面へ反射塗料を塗布するなどの対策も導入していただきありがとうございます。

一方で、特別教室への設置については未整備の学校があります。今回の新型コロナウイルスにより、各学校では密集を防ぐために分散登校という手法を用い対応した経緯がありますが、再び感染者が増加し、中野区は都内でも感染者が多い地域の一つとなっております。これまで熱中症対策だけにフォーカスして参りましたが、新たな視点を持たざるを得ない状況であります。今後も特別教室等も有効活用し密集を防ぐ努力が求められて参ります。

平成 28 年度より 5 ヶ年計画として取り組んでいただいておりますが、熱中症及び新型コロナウイルスの感染予防対策として、特別教室等への空調設備の設置は急務であります。

最終年度である今年度中に設置を完了することはもちろんですが、空き教室も含め全ての部屋に空調設備を設置し、一日の大半を学校で過ごす生徒・教職員の肉体的かつ精神的な負担軽減を図るべきであると考えます。また、再編新校においては将来的 な施設運用を加味した上で設置していただきますよう、以下について強く要望いたします。

- ◇特別教室への空調設備の設置を確実にを行うとともに、新型コロナウイルス対策の一環として空き教室の使用頻度が高まっているため、必要な箇所に空調設備の設置を図ること。
- ◇再編新校においては将来的な施設運用を加味した上で設置すること。

●今後の方向性

特別教室の冷暖房設備については、令和 2 年度に 2 つ目の部屋(第 2 教室)への設置を完了させる予定で進めていただいております。

特別教室以外の空き教室等については、各校の使用状況等を聴取しながら、個別に対応を検討していく模様。

新校舎における冷暖房設備については、教育環境として必要な諸室に整備していく他に、地域の活動や避難所としての運用等も想定のうち設置していく模様。

統一要望3「多目的トイレ・誰でもトイレの設置」について

※特別支援に関わる重要項目のため全文掲載

平成28年4月に施行された障害者差別解消法は、「全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的としたもの」であります。

中野区立中学校においては現在3校に特別支援学級と1校に通級学級があり、さらに今後は、特別支援教室を全校配置するといった、多様性の認容と共生社会の実現に向けた教育施策の計画推進をいただいているところです。

ところが、そのソフト(施策)を受け入れるハード(校舎)の多くは、現段階では対応の遅れが目立っています。ことトイレに関しては、その遅れが顕著に表れているといえます。

多くの学校に多目的トイレが設置されていますが、該当生徒の性別に合わせた男女どちらかのトイレだけであったり、トイレの一番奥に設置されていたりと、利便性がいいとはいえません。また、普通学級でも先天性の障がい、不慮の事故や怪我等による肢体不自由で車いすの使用を余儀なくされるケースが考えられます。今後も公立学校として、そうしたニーズに対してより積極的に応えていく必要性があると考えます。

また、今後は障がいのみにとどまらず、社会的にも取り組みが進む性的マイノリティへの理解推進も必要と考えます。成人のみならず、性別の違和に悩む生徒も少なからず存在しており、その対応は決して無視されるものであってはなりません。公共の場での設置が広がる「誰でもトイレ」は、障がいのある生徒のみならず、そうした悩みを抱える生徒にも資するものと考えます。

中野区教育委員会として、今後の設置を想定しているようですが、各学校により条件等が異なりますので、設置の際は各学校と十分な意見交換を行うようお願いいたします。学校は公共機関であり、地域コミュニティの拠点、また避難所としての役割も担っており、生徒、教員、保護者のみならず、様々な年代や性別の方々の受け入れが求められます。

今後、中野区ユニバーサルデザイン推進条例に基づき、学校施設にも既存の設備を縮小することなく、障がいの有無、性別、年齢などに関わらず、また場所・時間帯などにも制限されずに利用可能な「多目的トイレ」、「誰でもトイレ」を早期に設置していただくよう、以下について強く要望いたします。

◇区内9校への「多目的トイレ」、「誰でもトイレ」の設置に向けた検討を速やかに行い、早期の設置を図ること。

◇設置に向けて検討する際は、各学校との意見交換を十分に行うこと。

●今後の方向性

改築設計を進めている学校については、各階に「誰でもトイレ」を設置して、あらゆる方々にお使いいただける仕様としていく模様。

既存の学校については、各校における条件が異なり、設置場所にも限りがあるため、各校と意見交換のうえ、今後の改修工事の際に可能な限り設置していく方向で対応していく模様。

統一要望 4「災害・生徒への安全対策」について ※要望項目のみ掲載

- ◇特に防災に関しては、管轄・所管の分け隔てなく、教育部門と防災部門で定期的に意見交換と施設状況等の実態を相互に把握すること。
- ◇特に区立中学校 10 校(令和 3 年度より 9 校)生徒約 3,200 名がボランティア活動等の最中に余震等による建物や塀の倒壊、落下物等から頭部を守るための折畳みヘルメットを早急に配備すること。
- ◇中学生のボランティア活動を安全確保した上で運営できるよう、活動基準および危険な業務で避けるべき業務内容等を定めたマニュアルを早急に整備すること。
- ◇災害による停電時に各校体育館のエアコンや扇風機、連絡用通信端末等を稼働できるよう発電機が配備されておりますが、避難場所が各教室に及んだ場合は発電機だけでは十分な電源確保ができないと予想されますので、早急に発電機の増設と蓄電池を追加配備すること。

●今後の方向性

近年の大規模災害において、被災自治体における中学生・高校生のボランティア活動には、目をみはるところがあり、区としても、災害時における中・高生ボランティアの活動を視野に入れた対応が必要と考えている。そのため、今後は、教育部門と防災部門で定期的に意見交換を行うなど、施設状況等の実態把握に努めるとともに、ボランティアマニュアルについても作成に向けて検討していきたいと考えている模様。

避難所の発電機は、連絡通信用無線機の運用や炊き出し等のバーナーの使用、また、夜間防犯面での投光器の使用を想定しており、各教室への防犯面での明かりは、懐中電灯やランタンの活用を想定している模様。

発電機は、ガソリンを使用することから排気ガスなどの課題があり、室内利用は限定的になることが予想されるため、室内などでの利用を踏まえ、新たに蓄電池の追加配備を検討している模様。エアコンが使用できる自家発電設備については、費用面や維持管理、保管場所から配備は難しい模様。

ヘルメットの配備については、避難者やボランティアの方など、全員分を準備する必要があり、使用目的などを踏まえると解決すべき問題があると考えている模様。

統一要望 5「新型コロナウイルス対策」について ※要望項目のみ掲載

- ◇少ない投資で最大限の効果がありますので、必要な箇所への網戸の設置を早急に図ること。
- ◇怪我や疾病等の応急処置を行う養護教諭の感染リスクを下げるため、医療用マスク N95 等を各学校へ配備すること。
- ◇学校設置者として、医師会や薬剤師会等と連携し各学校へ十分なアルコール消毒液を適時配備すること。なお、各校での使用状況は異なるため、補填する場合は臨機応変に対応すること。
- ◇子どもたちに分かりやすく具体的で有効な感染予防対策として、現在のハンドル式の蛇口をレバー式に交換すること。

●今後の方向性

医療用マスク N95 について保健所に確認したところ、当該マスクは人工呼吸器を付けているような患者の呼吸器の取り外しなどの処置に対して使用するもので、医療機関においても通常はサージカルマスクで対応しており、また、密閉性が高いため息苦しく、15分程度しか付けていられないこともあり、養護教諭が行う応急処置においての医療用マスク N95 の使用は適さないと判断した模様。

医療現場や薬局はコロナウイルス感染症に最前線で取り組んでおり、まず、アルコールを確保すべき機関と認識しています。その妨げとならないよう、学校設置者としては、各学校に必要なアルコールを用意できるような区の福祉部門とも協力しながら、引き続き調達に努めていく模様。東京都を通じて文部科学省が関係省庁と連携し、消毒用エタノールの学校に対する供給支援を行うよう要望していく模様。

虫の侵入が懸念される部分の網戸設置については、対応を検討していく模様。

蛇口のレバー式への変更は、様々なタイプの種類があり、現在、使いやすさや耐久性などを含め、器具の選定を行っている模様で、今後、教室近くの廊下流しの蛇口について、レバー式への変更を進めていく模様。

皆さまへ

上記以外にも中野区に対しまして様々な分野における要望、提言等をしております。

詳細につきましては、中 P 連ホームページに掲載しておりますので是非ご覧頂けますと幸いです。

中 P 連 URL <http://www.nakanoj-pta.jp/>

※緑野中学校 PTA ホームページともリンクしております。

以上

緑野中学校 PTA 会長 能登 祐克